

宮 城 県 の 経 済 動 向

令和6年第3四半期

(7月～9月期)

I 概況

令和6年第3四半期(7～9月期)の宮城県の経済動向について、指標別にみると以下のとおりとなっている。

- ・ 生産は鉱工業生産指数が3期ぶりの低下となった。
- ・ 住宅投資は持家や分譲住宅の減少により2期ぶりの減少となった。
- ・ 公共投資は都道府県などの発注工事が減少したことにより、3期連続の減少となった。
- ・ 個人消費では、百貨店・スーパー販売額は 10 期ぶりの減少、コンビニエンスストア及び専門量販店を加えた合計販売額(参考値)は 11 期ぶりの減少となった。乗用車新車登録・届出台数は小型車や普通車の減少により3期連続の減少となった。仙台市消費者物価指数(生鮮食品を除く総合指数)は 13 期連続の上昇となった。
- ・ 雇用では、有効求人倍率が2期連続の低下、新規求人倍率が2期ぶりの上昇となった。所定外労働時間は7期ぶりの増加、実質賃金指数は3期連続の上昇、雇用保険受給者実人員は6期連続の増加となった。
- ・ 企業倒産件数は、前年同期と同水準となった。

(単位：％、ポイント)

主要経済指標の推移 (前期比 (差)、前年同期比)		令和4年		令和5年				令和6年		
		7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月
生産	鉱工業生産指数 ※1 (前期比)	9.4	▲ 3.0	▲ 8.8	0.4	▲ 3.7	▲ 3.8	1.6	10.0	▲ 10.0
住宅投資	新設住宅着戸数 (前年同期比)	14.2	▲ 1.9	▲ 0.1	▲ 9.3	▲ 12.1	▲ 11.2	▲ 11.1	30.9	▲ 1.4
公共投資	公共工事請負金額 (前年同期比)	2.0	▲ 32.1	▲ 20.4	▲ 14.8	0.3	16.2	▲ 4.3	▲ 3.8	▲ 3.1
個人消費	百貨店・スーパー販売額 ※2 (前年同期比)	1.8	1.7	2.8	2.7	3.2	3.2	4.3	0.5	▲ 0.5
	コンビニエンスストア販売額 (前年同期比)	3.0	4.4	4.0	2.9	3.9	0.8	0.5	▲ 0.6	▲ 2.7
	家電大型専門店販売額 (前年同期比)	▲ 3.0	6.7	▲ 0.9	▲ 6.7	8.9	▲ 0.9	2.5	4.3	▲ 3.9
	ドラッグストア販売額 (前年同期比)	7.9	10.9	8.0	8.1	8.9	7.7	9.2	7.5	5.2
	ホームセンター販売額 (前年同期比)	▲ 1.4	1.2	▲ 2.1	▲ 4.8	▲ 3.0	▲ 3.1	▲ 2.9	0.5	▲ 1.5
	計 ※3 (前年同期比)	2.5	4.1	3.3	2.3	4.3	2.6	3.6	1.7	▲ 0.4
	乗用車(含軽)新車登録・届出台数 (前年同期比)	8.8	8.6	13.9	19.5	10.3	14.7	▲ 17.4	▲ 14.2	▲ 1.9
雇用	仙台市消費者物価指数 ※4 (前年同期比)	3.5	4.4	4.1	3.8	3.9	3.4	3.0	3.2	2.7
	有効求人倍率 ※5 (前期差)	0.03	0.02	0.01	▲ 0.03	▲ 0.04	▲ 0.03	0.00	▲ 0.07	▲ 0.03
	新規求人倍率 ※5 (前期差)	0.03	0.02	▲ 0.01	▲ 0.07	▲ 0.05	▲ 0.04	0.03	▲ 0.16	0.07
	所定外労働時間 ※6 (前年同期比)	3.5	12.8	▲ 4.2	▲ 0.2	▲ 8.7	▲ 10.4	▲ 0.7	▲ 2.9	6.3
	実質賃金指数 ※6 (前年同期比)	5.3	▲ 7.3	0.8	3.0	0.3	▲ 0.2	3.5	2.2	1.1
	雇用保険受給者実人員 (前年同期比)	▲ 1.0	▲ 1.5	▲ 1.6	1.3	1.0	6.1	5.8	6.3	3.7
企業倒産	企業倒産件数 (前年同期比)	0.0	73.3	24.2	105.9	41.7	26.9	7.3	42.9	0.0

- ※1 令和2年=100。
 ※2 全店舗比較による。
 ※3 各公表値(端数処理済)の合算による概算値(参考)。
 ※4 令和2年=100。生鮮食品を除く総合指数。
 ※5 単位はポイント。
 ※6 令和2年=100。事業所規模30人以上、製造業。実質賃金は現金給与総額。

Ⅱ 主な指標の動き

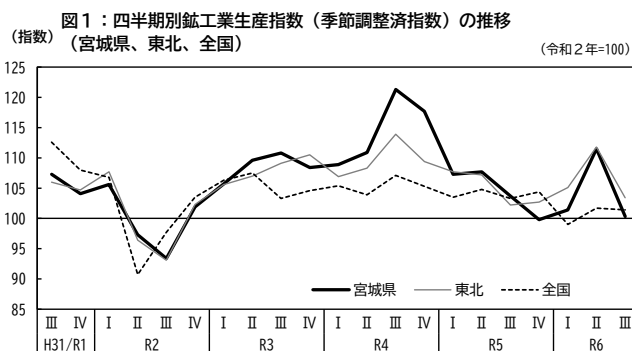
1 生 産

○ 鉱工業生産指数

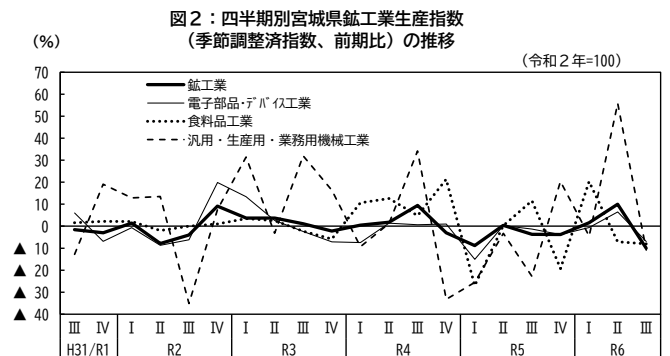
令和6年第3四半期(7～9月期)の鉱工業生産指数(季節調整済指数)は 100.3(令和2年=100)で、前期比が 10.0%の低下となり、3期ぶりの低下となった(図1、図2)。

ウェイトの大きい業種を中心に前期比をみると、電子部品・デバイス工業は 7.0%低下し、2期ぶりの低下となった。汎用・生産用・業務用機械工業は 10.8%低下し、2期ぶりの低下となった。食料品工業は 8.0%低下し、2期連続の低下となった。(図2)

前年同期比(原指数での比較)では 3.7%の低下となり、2期ぶりの低下となった。



(資料:宮城県統計課)



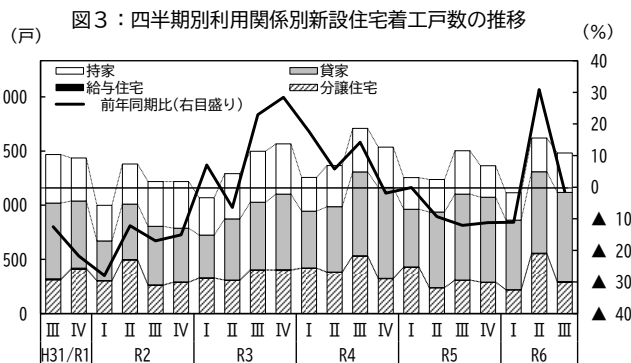
(資料:宮城県統計課)

2 住宅投資

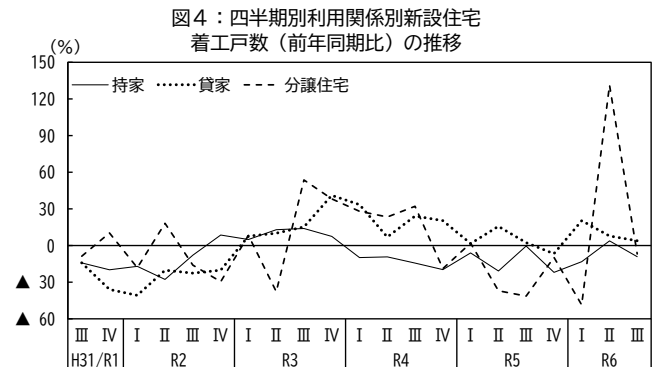
○ 新設住宅着工戸数

令和6年第3四半期(7～9月期)の新設住宅着工戸数は 4,446 戸で前年同期比が 1.4%の減少となり、2期ぶりの減少となった(図3)。

利用関係別に前年同期比をみると、持家(建築主が自分で居住する目的で建築するもの)は 9.2%減少し、2期ぶりの減少となった。分譲住宅(建売または分譲の目的で建築するもの)は 6.9%減少し、2期ぶりの減少となった。貸家(建築主が賃貸する目的で建築するもの)は 3.9%増加し、3期連続の増加となった。(図4)



(資料:国土交通省)



(資料:国土交通省)

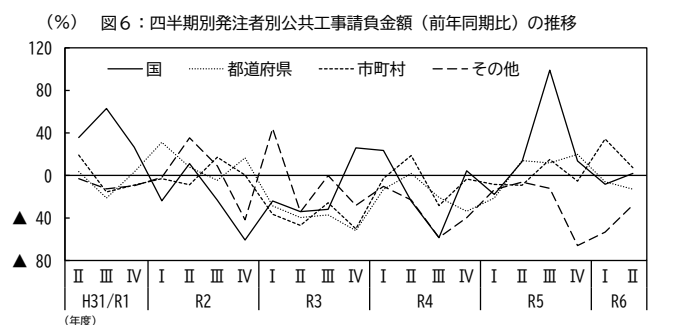
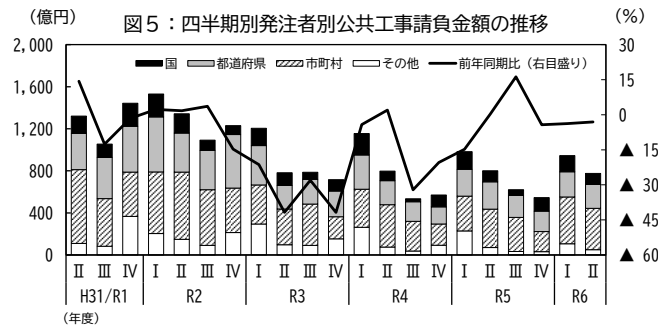
3 公共投資

○ 公共工事請負金額

令和6年度第2四半期(7～9月期)の公共工事請負金額は 775 億 42 百万円で、前年同期比が 3.1%減少し、3期連続の減少となった(図5)。

発注者別に前年同期比をみると、都道府県は 12.9%減少し2期連続の減少となった。その他(独立行政法人等、地方公社、その他)は 27.8%減少し、13 期連続の減少となった。国は 1.9%増加し2期ぶりの増加となった。市町村は 7.3%増加し2期連続の増加となった。(図6)

※ 公共工事請負金額は、年度をベースにしているため、動向や資料は年度を基準としています。

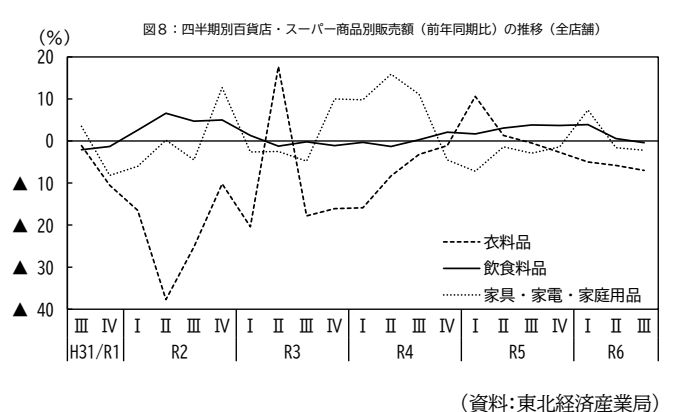
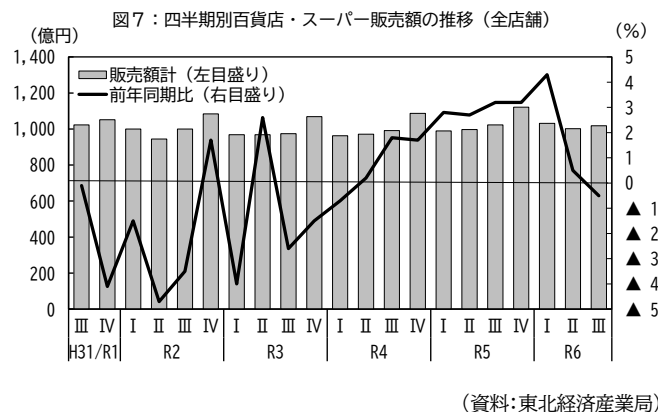


4 個人消費

(1) 百貨店・スーパー販売額

令和6年第3四半期(7～9月期)の百貨店・スーパー販売額は 1,017 億 73 百万円で、全店舗比較の前年同期比は 0.5%減少し、10 期ぶりの減少となった(図7)。既存店比較の前年同期比は 0.1%の減少となり、9期ぶりの減少となった。

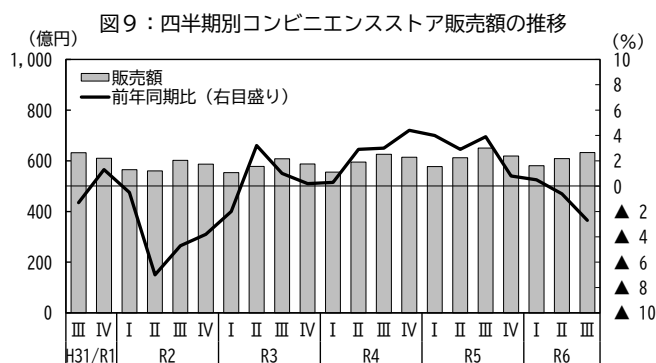
商品別に前年同期比(全店舗比較)をみると、衣料品は 7.0%減少し、5期連続の減少となった。飲食料品は 0.4%減少し、9期ぶりの減少となった。家具・家電・家庭用品は 2.2%減少し、2期連続の減少となった。食堂・喫茶は 3.5%減少し、14 期ぶりの減少となった。身の回り品は 4.4%増加し、12 期連続の増加となった。その他商品(医薬品、化粧品、洗剤、書籍等)は 1.8%増加し、12 期連続の増加となった。(図8)



※ 平成 27 年 7 月、令和 2 年 3 月に調査対象事業所の見直しが行われたため、前年同期値をリンク係数で補正(12 頁参照)

(2) コンビニエンスストア販売額

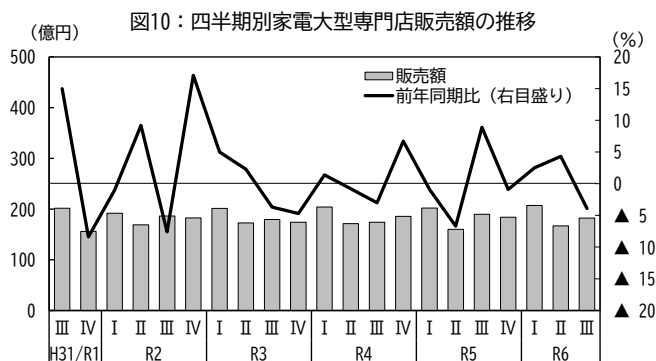
令和6年第3四半期(7～9月期)のコンビニエンスストア販売額は632億25百万円で、前年同期比は2.7%減少し、2期連続の減少となった(図9)。



(資料:東北経済産業局)

(3) 家電大型専門店販売額

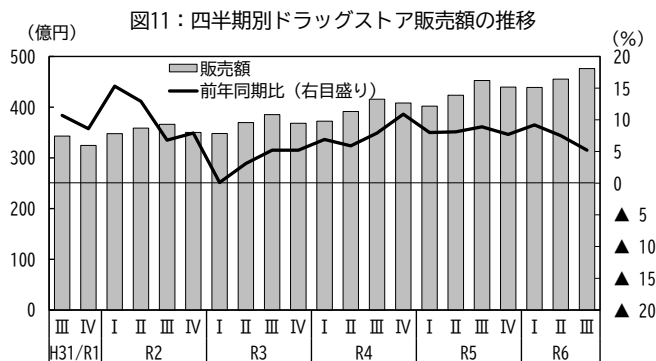
令和6年第3四半期(7～9月期)の家電大型専門店販売額は182億10百万円で、前年同期比は3.9%減少し、3期ぶりの減少となった(図10)。



(資料:東北経済産業局)

(4) ドラッグストア販売額

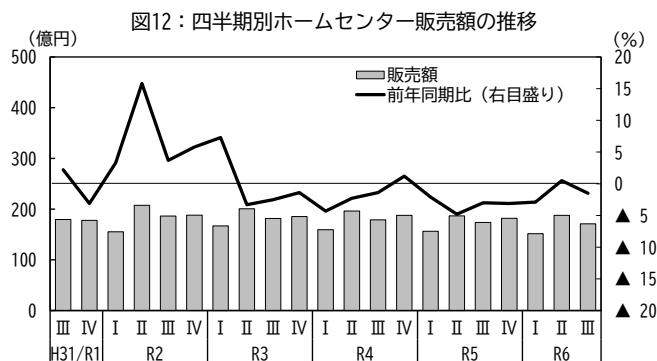
令和6年第3四半期(7～9月期)のドラッグストア販売額は475億94百万円で、前年同期比は5.2%増加し、34期連続の増加となった(図11)。



(資料:東北経済産業局)

(5) ホームセンター販売額

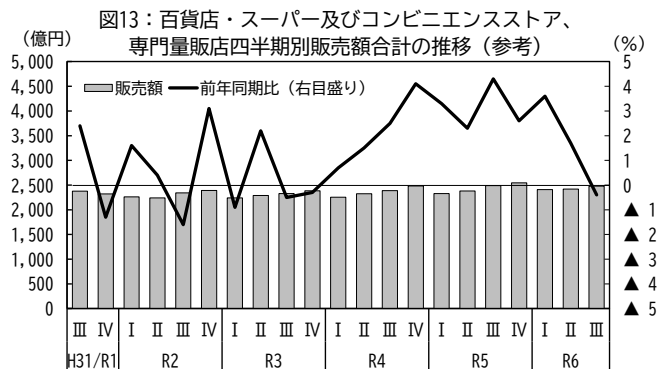
令和6年第3四半期(7～9月期)のホームセンター販売額は171億9百万円で、前年同期比は1.5%減少し、2期ぶりの減少となった(図12)。



(資料:東北経済産業局)

(6) 百貨店・スーパー及びコンビニエンスストア、専門量販店販売額(参考)

令和6年第3四半期(7～9月期)の百貨店・スーパー及びコンビニエンスストア、専門量販店販売額の合計(概算による参考値)は2,479億11百万円で、前年同期比は0.4%減少し、11期ぶりの減少となった(図13)。



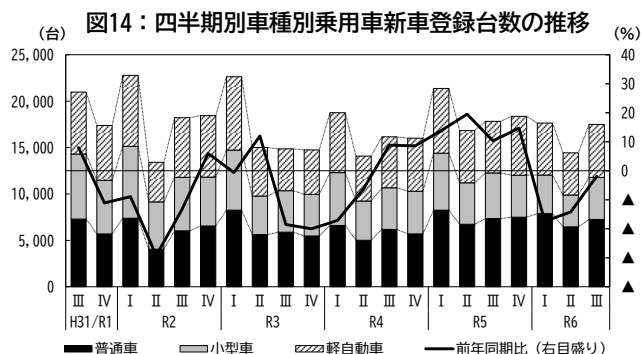
(資料:東北経済産業局)

※(1)～(5)各公表値(端数調整済)の合算による概算値。

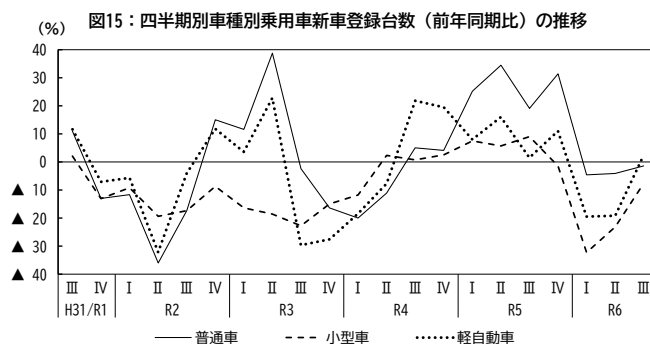
(7) 乗用車新車登録及び届出台数

令和6年第3四半期(7～9月期)の軽自動車新車届出台数を合わせた乗用車新車登録台数は1万7,490台で、前年同期比が1.9%減少し、3期連続の減少となった(図14)。

車種別に前年同期比をみると、小型車は7.7%減少し、4期連続の減少となった。普通車は1.4%減少し、3期連続の減少となった。軽自動車は2.5%増加し、3期ぶりの増加となった。(図15)



(資料:東北運輸局、全国軽自動車協会連合会)



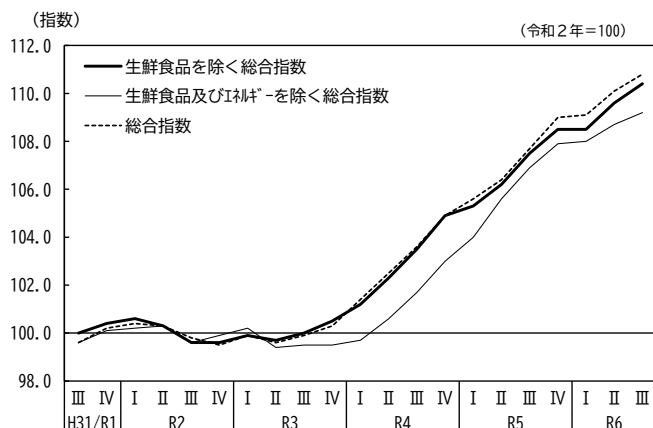
(資料:東北運輸局、全国軽自動車協会連合会)

(8) 仙台市消費者物価指数

令和6年第3四半期(7～9月期)の仙台市消費者物価指数(令和2年=100)は、生鮮食品を除く総合指数は110.4で、前期比が0.7%上昇し、2期連続の上昇となった。生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は109.2で、前期比が0.5%上昇し、13期連続の上昇となった。総合指数は110.8で、前期比が0.6%上昇し、13期連続の上昇となった(図16)。

前年同期比では、生鮮食品を除く総合指数は2.7%上昇し、13期連続の上昇となった。生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は2.2%上昇し、10期連続の上昇となった。総合指数は2.9%上昇し、13期連続の上昇となった。

図16：四半期別仙台市消費者物価指数の推移



(資料:宮城県統計課)

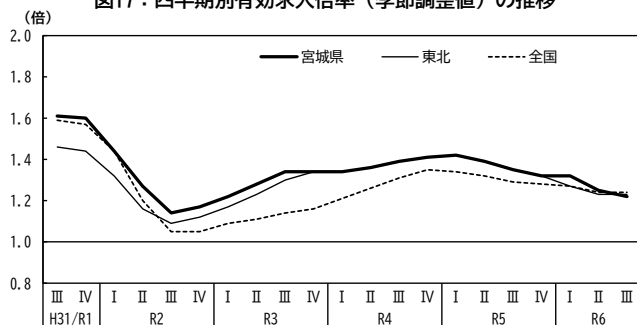
5 雇 用

(1) 求人倍率

令和6年第3四半期(7～9月期)の有効求人倍率(季節調整値、7～9月平均値)は1.22倍で、前期差は0.03ポイント低下し、2期連続の低下となった(図17)。

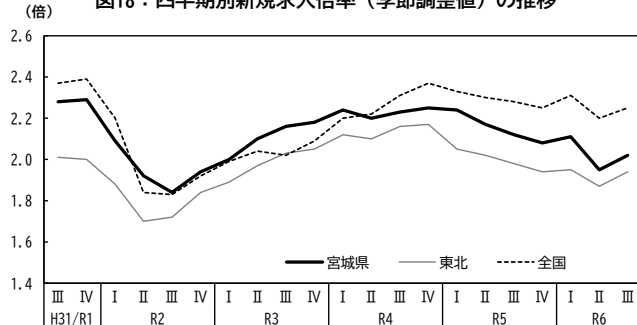
新規求人倍率(季節調整値、4～6月平均値)は2.02倍で、前期差は0.07ポイント上昇し、2期ぶりの上昇となった(図18)。

図17：四半期別有効求人倍率(季節調整値)の推移



(資料:宮城労働局)

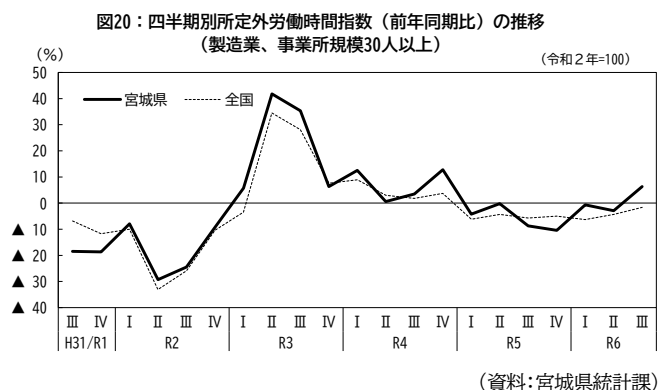
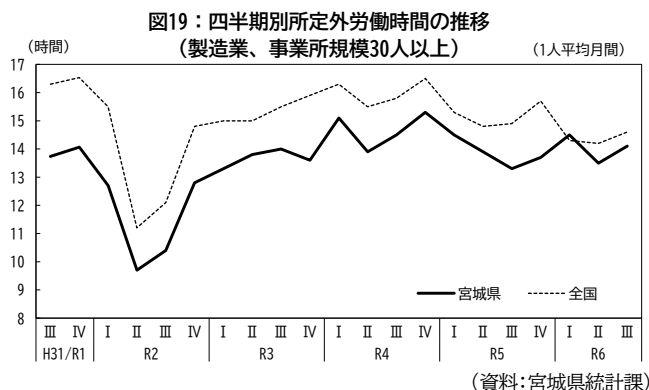
図18：四半期別新規求人倍率(季節調整値)の推移



(資料:宮城労働局)

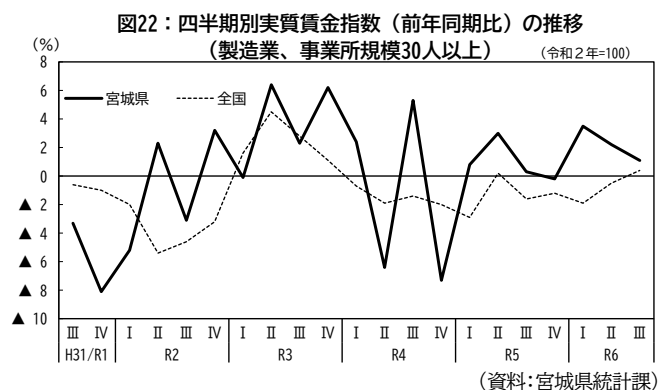
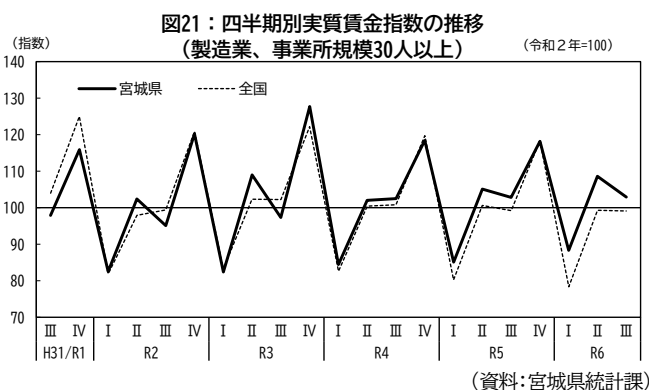
(2) 所定外労働時間

令和6年第3四半期(7～9月期)の所定外労働時間(製造業、事業所規模 30 人以上、1 人平均月間)は 14.1 時間で(図 19)、前年同期比(指数、令和2年=100)は 6.3%増加し、7期ぶりの増加となった(図 20)。



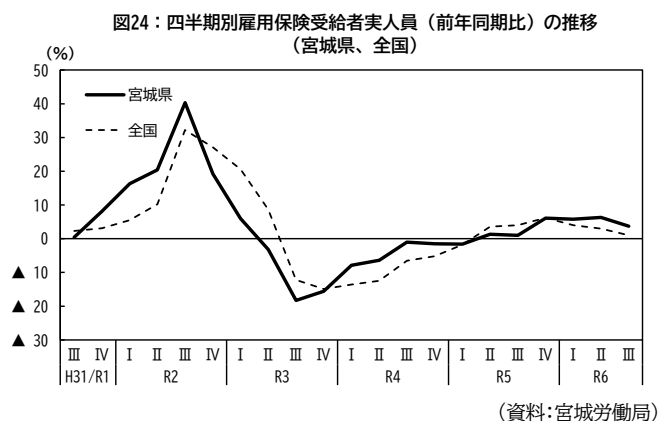
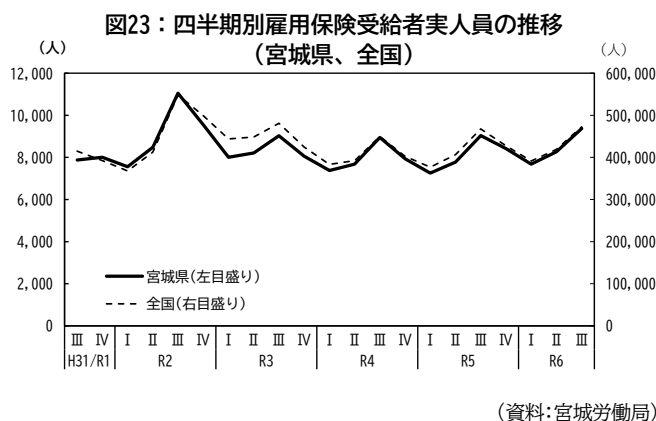
(3) 実質賃金指数

令和6年第3四半期(7～9月期)の実質賃金指数(製造業、令和2年=100、事業所規模 30 人以上)は 102.9 で(図 21)、前年同期比は 1.1%上昇し、3期連続の上昇となった(図 22)。



(4) 雇用保険受給者実人員

令和6年第3四半期(7～9月期)の宮城県の雇用保険受給者実人員は 9,367 人で(図 23)、前年同期比は 3.7%増加し、6期連続の増加となった(図 24)。



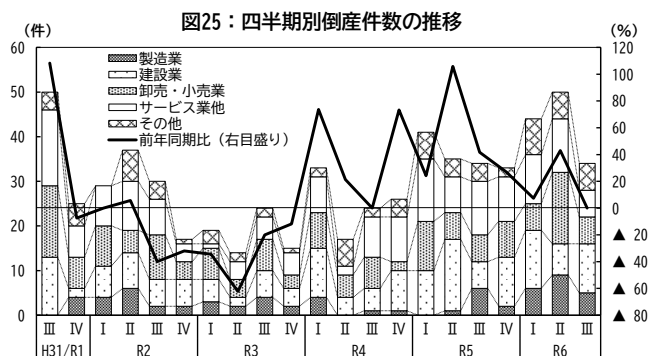
6 企業倒産

令和6年第3四半期(7～9月期)の宮城県内の企業倒産(負債総額1千万以上)の件数は 34 件で、前年同期と同水準となった(図25)。

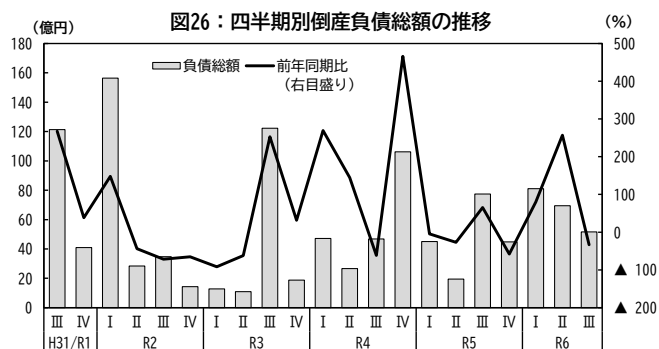
負債総額は 51 億 59 百万円で、前年同期比は 33.4%減少し、3期ぶりの減少となった(図26)。

これらのうちの不況型倒産(販売不振、売掛金回収困難、既往のシワ寄せ(赤字累積))の件数は 29 件で、前年同期比は 3.3%減少し、12 期ぶりの減少となった。件数の構成比は 85.3%で、前年同期より 2.9 ポイントの減少となった。

大型倒産(負債総額 10 億円以上)は1件発生した。



(資料：(株)東京商工リサーチ)



(資料：(株)東京商工リサーチ)